

●出版業者處分回數調

(府縣名ナキハ東京○印單行本  
△印雜誌)

昭和十一年三月末現在

昭和十一年		中		昭和十一年		中	
禁止回數	安寧	風俗	禁止回數	安寧	風俗		
三件	○ナウカ社○東京バンフレット社	△大衆社書房 △大日本出版協會	二件	○(京都)洛北青年同盟	○(大阪)盛進堂書 店 ○本間三陽堂書店 ○千代田書院		
二件	△(岡山)短歌詩派社○吉川弘文堂	△飯倉書房○平野	一件	○(愛知)一粒社 ○(京都)皇道日本新聞社 ○(京都)時事研究社 ○(京都)今日ノ問題社 ○(京都)大文字書院			
一件	○大倉廣文堂○聖書智識社○(大阪)現社○(大阪)佛敎年鑑社○(大阪)今日の問題社○(大阪)産業發行所○(大阪)労働調査所○(大阪)政治經濟研究所○(大阪)天聲社△(岡山)ア	○三笠書房 ○日本佛敎新聞社 ○帝國出版社 ○博文館 ○文藝社 ○金龍堂出版部 ○サイレン社△(京都)探偵文學社					

嚴秘

出版警察報

第九十二號

警保局圖書課

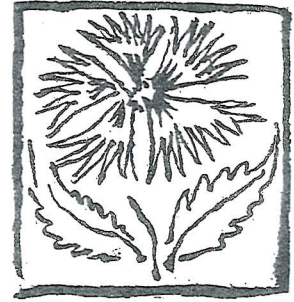
# 出版警察報

第九二號目次

(昭和十一年五月)

研究	一
新興宗教の概況とその取締	一
内地出版物取締状況	三
概説	三
處分要項	五
分割還付	一五
蓄音機レコード處分要項	一六
新聞紙處分状況調	一八
差押執行状況	一九〇
新聞紙、出版物差押状況調	二〇四
特殊取締状況	二四六
外來出版物取締状況	二四九
概説	二五九
處分要項	二六四

輸入禁止處分調	三五四
出版物司法處分彙報	三六一
概説	三六一
出版物關係司法處分狀況調	三七六
資料	三七九
思想關係主要新聞紙雜誌通信調	三九〇
主要新聞紙雜誌處分回數調	三九〇
出版業者處分回數調	三九〇



# 研究

## 新興宗教の概況とその取締

- 序言、(最近の宗教の傾向)
- 一、新興宗教勃興の原因
- 二、神道系の新興宗教
  - (イ) 神道十三派の概要
  - (ロ) 神道系の新興宗教團體
- 三、佛教系の新興宗教
- 四、基督教系の新興宗教
- 五、その他の新興宗教



(三) 蓄音機レコード取締状況

本月中蓄音機レコードに對して處分に附せられたるものは、風俗禁止の三件があつたのみで、前月分の處分狀況に比して稍減少を示して居る。處分に附せられたものゝ内容は、都々逸、漫才、映畫物語であつて、何れも大衆的頒布力を有するものである。尙之等の處分理由等に就ては、處分要項欄の箇々に詳述せるを以て此處には之を省略することゝした。

處分要項

★安寧

禁止處分

一般安寧

- 新聞紙 一〇四件
- 新聞紙 三三三件
- 通信 五件
- 新聞雜誌 一件
- 出版雜誌 八件
- 單行本 二二件
- 宣傳印刷物 三六件

新聞紙

- 左翼系 三三三件
- 右翼系 六件
- 其他一般 一一件
- 内地出版物取締狀況 一六件

左翼系

六件

週刊時局新聞	第一五二號	東京市 同社發行	四月十三日發行 四月十一日禁止
--------	-------	-------------	--------------------

「富の獨占と自由の獨占」ト題スル記事(水野廣徳)ハ恰モ軍部ガ國  
民ノ自由ヲ奪取シ之ヲ獨占シツ、アルガ如ク暗示シタルモノナル  
ガ斯ノ如キハ皇軍ニ對スル誤解ヲ生ゼシメ軍民離間ヲ招來セシム  
ル虞アリ、尙他ニ二・三箇所斷片的不良箇所アルニ依リ併セテ禁  
止處分ヲ附セラル

(前略)富の獨占素より大に惡むべきである。同時に自由の獨占更に惡むべきである。然るに富の獨占を責むる聲のみ獨り高くて、自由の獨占を悲しむ聲の杳として聞へざるは何ぞやである。殊に〇〇の如きは富の獨占を排しながら、自ら自由の獨占を行ひつゝある。言論に對する彼等の態度が最も明かに之を證據立てゝる。

日本交通労働新 聞	日本交通労働 總聯盟機 關紙 第五五號	東京市 同社發行	四月十六日發行 四月十六日禁止
--------------	------------------------------	-------------	--------------------

「不當料は法廷へ持ち出せ！」ト題スル記事ハ裁判ノ階級性ヲ強

軍民離間を招来するが如き記事を掲載せるもの 一件

福井評論	第一二巻第 四號四月號	福井市 同社發行	四月一 日發行 四月四 日禁止
------	----------------	-------------	--------------------------

「差押へ待つてくれ！憂ふべき日本よ」ト題スル記事ハ縣稅滯納者ニ對シ差押處分ヲ斷行スル旨ノ督促狀ガ發セラレタルニ對シ一滯納者ヨリ爲シタルトスル投書ヲ掲載シタルモノナルガ二・二六事件ヲ引合ニシテ差押處分ノ不當ヲ述ベタルモノナルモ右記述ハ延テ軍民離間ヲ招来スル虞アリト認メ禁止

(前略)ア、悲しいかな憂ふべき日本の現状よ、この間東京に大事變が勃發して重臣達を殺したそうだが〇〇〇〇〇〇〇〇兵隊の大衆はどうなるのでせうか、私達がお上へ納稅出來ないのも不忠殘念ですが喰ふにも困る貧乏でどうすることも出來ません、しかし私達が納稅したお金で作つた鐵砲や養つて居る兵隊があんな大それたことをしでかすならこの際滯納したからとて差押へ處分はあまりひどいやうにおもひます(以下略)

事件に關聯して不敬に亘るが如き記事ヲ掲載せるもの 一件

海軍に於ける諸制度の改正に關する件

四件

(昭和十一年四月一日差止)

廣島日報	第三、二七 七號	廣島市 同社發行	四月七 日發行 四月九 日禁止
------	-------------	-------------	--------------------------

「擴充されを海軍教育局先ず教育本部新設」云々ト題スル記事尙其ノ内容ハ前掲「旭川毎日新聞」四月二日附禁止ノモノト殆ト同様ニ付省略

旭川毎日新聞	第二、八三 五號	北海道旭川 市同社發行	四月三 日發行 四月二 日禁止
--------	-------------	----------------	--------------------------

空知毎日新聞	第一、五九 三號	北海道 同社發行	四月三 日發行 四月三 日禁止
--------	-------------	-------------	--------------------------

網走毎日新聞	第一、一五 一號	北海道 同社發行	四月三 日發行 四月三 日禁止
--------	-------------	-------------	--------------------------

以上三件ハ「海軍の制度機構改革能率増進不合理打破教育局を廢して教育本部に制度調査會で目下考究す」ト題スル同一内容ノ記事ヲ掲載シタルニ因ル

(前略)調査會ではこの方面の研究は特に慎重かつ徹底的

内地出版物取締状況

新聞解剖	第三卷第三 號四月號	東京 同社發行	四月五 日發行 四月五 日禁止
------	---------------	------------	--------------------------

「皇室の國情を得ざる所謂皇道主義」ト題スル記事ハ紙育「ヘラルド・トリビュン」誌ノ記事ヲ紹介的ニ掲載シタルモノナルガ軍部ノイデオロギイ或ハ二・二六事件ニ關聯シテ濫リニ皇室ノ御意思ヲ忖度シ奉ルガ如キ不敬ノ言説ヲ爲シ或ハ二・二六事件ノ原因動機ニ關シテ云爲シ尙他ノ記事ニ於テ叛亂軍ノ行動ニ關スル記事或ハ稍々肯定的筆致アルニ因リ併セテ禁止理由トナル

(前略)軍部の「イデオロギイ」は獨逸の夫れよりも極端なる國家社會主義にあり、之を共產主義と分離し、且つ議會及び政府等を威嚇せんが爲、彼等は所謂皇道主義なるものを發明せるが、右は皇室の同情を得ず、皇室より却て之を非とし國內の產業界及其の屬する政黨を支持し給へる處客年の教育總監の更迭及先週の選舉の結果とは軍部をして其の立場の崩壞を感じせしめたるが、彼等としては皇室に對し叛亂し得ざる爲、宣傳に惑はされたる無智の青年を隔つて愛國的殺戮に進ましめたり若しこの際斯かる兇暴なることを其筋が宣せらるれば其の效果大なるべしと論じた。

に行ふことゝなつた、しかして現在の部内制度の改革中最も緊急を要すると見られるのは教育局の擴充である、即ち現下の諸情勢にかんがみ兵員の教育方面に力を注ぐことは最も必要であるが現在の教育局は規模小さく、人員も少いので重要性を帯びて來た兵士の教育に徹底を缺き、また諸種の要求にも應じ得ないのみならず、陸軍の教育總監部との均衡もあるのでこの際教育局を廢して教育本部を新設することゝなる模様であるが大體航空本部と同格で本部長には中將(教育局長は少將)が補せられるはづである。

削除處分

- 一般安寧 一二五件
- 新聞雜誌 六件
- 出版雜誌 四件
- 單行本 一五件
- 新聞雜誌 六件
- 左翼系 ナシ
- 右翼系 ナシ



相には特に今のやうな特徴がはつきりと窺へるのですが實はこれは宮相だけにある氣持でなく、今日の事件を謂はゞ明治的な感情を以て見る人々には相當に多いのです。要路の人々にその類が多いばかりでなく、チャーナリストのなかでも、二・二六事件から明治維新前後の事件を聯想した人々は尠くはありませんでした。歴史的な聲想は頗る自然に起るものですが、此の底に現在の歴史を過去の枠に嵌めて見るといふ傾向が存してゐるのは目すべきことです

驢馬
第一卷 第六册
兵庫縣路市、白塔書林發行
四月十五日發行 四月十五日削除

「停車場の雲」下題スル創作(冲靈徹也)中左記摘記ノ箇所ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルガ如キ記述アルニ因リ第三四頁削除

(前略)彼等中學生が歸りの汽車の中で始めた。天皇陛下の顔を見た時に涙が出た、と一人が話した。そんなことは嘘だと一人が答へた。治一も涙が出た一人だつたそれは群集心理だ、緊張のために出るのだと誰か叫んだ。でも叫んだ當人が群集の整然とした沈黙の攻果につきあつたつて黙つ

て感激してしまつた。誰かまた言つた。日露戰爭秘話なる本に、天皇陛下が御親閲なされば兵卒の戦死者が必ず一萬増加する、書いてある。だから政策なんだ。嘘だと思ふなら學校の圖書館にある其の本を見よ……それで彼等中學生は考へこんでしまつた。

留東學報
(支那文)
第二期
東京同社發行
五月一日發行 四月廿八日削除

「日本の軍刑事法小考」下題スル記事ハ我軍部内ニ派閥ノ抗争アリ永田中將殺害事件モ之カ爲メ發生セルモノナルガ如ク記述シ更ニ我國ガ弱小民族國ヲ侵略シツツアリト斷ジテ我對外國策ヲ曲説、誹謗スルガ如キ言説ヲ爲セルニ因リ第四十七頁削除

二・二六事件ノ前ニ於テ日本陸軍ニハ内部ノ軋轢カラ永田ガ刺サレタ事件ガ發生シタデハナイカ?

(中略)日本ハ産業資本ニ躍進テ遂ゲニ、金融資本ノ階段ニ達シタ今日、即チ——日本帝國主義ガ積極的ニ小民族ニ對シ侵略ヲ行フ今日、凡ユル觀念形態モ之ニ從ツテ變化シヤウトシテ居ル。

單行本

一五件

左翼系

一件

右翼系

七件

其の他一般

七件

左翼系

一件

水平運動の推移とその闘争
河上利治著
京都市河上融和運行動行研究所發
五月一日發行 四月廿五日三六頁削除

本書中三六頁ハ現在社會制度ヲ急激ニ破壊スベシト示唆スルガ如キ筆致アルニヨリ削除處分トナリタルモノヲ摘記スレバ左ノ如シ

左記

(前略)封建的支配は最早や資本主義によつて解決されなくなり反對にそれは資本主義との關係に於て益々強固化しつつある資本主義はそれ自らの矛盾の解決のために我國に於いて特に根強い封建主義を自己の有力な支柱たらしめんとするのである。従つて半封建的身分制による差別觀念の廢除即ち被壓迫部落大衆の絶對的な解決は現代社會制度××なしには絶對あり得ない。

右翼系

七件

現代軍部論
永井三郎著
東京市芝區田村町四丁目十八番地伊藤隆文發行
四月五日發行 四月六日削除

左記箇所ハ相澤中佐ヲ得難キ人物ト賞恤セルニ因リ安寧削除

記

(五四頁)

八月十二日事件は、智腦に於いて得難き一人物と、氣魄に得難き一人物とを同時に兎にも角にも失ふに到つた。

時局と經濟政策の見透
高橋龜吉述
東京市高橋財界研究會發行
四月七日發行 四月六日三九頁削除

今回ノ二・二六事件ハ政府等ガ軍ノ要望ヲ無理解ニ抑壓シタルニ因リ勃發セリト述ベオル部分

(前略)今回の二・二六事件と云ひ斯る不祥事を惹起せしめた最大の動因は軍の要望を政府や經濟界が正當に理解せず却つて之を無理解に抑壓するが如き反撥的態度を採り來つたことにあると云つて差支ありませんまい。

思川文集 第三卷	天野弘一著	東京市日本橋區通三丁目一番地 大同生命館 天野弘一發行	四月五日發行 四月六日削除
-------------	-------	-----------------------------------	------------------

本書ハ著者ガ奉仕的ニ市町村、青年團、學校、及警察署等ニ「パンフレット」トシテ頒布セルモノ並ニ辯護士生活中ノ隨想ヲ收録セルモノニシテ文中所謂機關説論爭以前ノ執筆ナルモ天皇機關説ヲ肯定シ居ルニ付削除

太閤記	矢田挿雲 第十一卷	東京市麹町區丸ノ内二丁目 丸ノ内ビル デザインング社 中央公論社 發行	三月十九日發行 四月六日削除
-----	--------------	---	-------------------

本書ハ秀吉ノ朝鮮征伐ニ取材セルノモナルガ、書中使節小西如安ヲシテ左記ノ如キ言辭ヲ語ラシメ居ルハ作者ニ他意無シトスルモ不敬ニ亘ルモノニ付削除

「ごもつとも、ごもつとも—それ故、それがその、今を去ること十六年前、天皇は信長のために弑せられ—」(第一四二頁)

二・二六事件背後關係ヲ記載セル點削除

これ迄おこなはれたこれらの事件は、いつも財閥の巨頭をねらつたのであつたが、二・二六事件はめづらしくも其れをしなかつた。どうしてであらうか。

これはおもしろい問題を伏在させてゐるのだが、それを語ることはゆるされぬ。唯その日三井財閥の總帥池田成彬は膽石病で大磯の別邸に病臥してゐて、落ちつかないやうなふうであつたといふ事だけは云へやう。

而して池田は事件が與へた波紋のあほりを喰つて三井合名の彼の位置を何程かゆさぶられたやうで、これがため彼の位置が直ぐにどうのこうのといふ事はよしんば無いにしても椅子をゆさぶられて彼の磐石の位置に鞍の這入つたことだけはたしかである。

朝鮮社會史讀本	李清源著	東京市白揚社發行	四月五日發行 二四二頁二四七 四月十四日削除
---------	------	----------	------------------------------

本書中第二四二頁及二四七頁乃至二四九頁ハ何レモ内鮮融和上面ハカラザル影響ヲ與フルモノアリトシテ削除處分ヲ見タルモノニ付(二四二頁)この頃日本居留民の朝鮮人に對する所置は實にXXを極め朝鮮人が貸金や賣掛代金を拂はぬ時はその朝鮮人の門や戸を釘付けにしたものだ、それが追々出來ぬ様になつたから今度は自宅に牢を設け朝鮮人を捕へて來てその内に入れ親類や友人が錢を償ふを待て始めて放免してやることにした。

時局と社會運動	小林五郎述	東京市芝區東平町三七 社會往來懇話會發行	四月廿二日發行 四月十八日削除
---------	-------	-------------------------	--------------------

本パンフレットハ、久原房之助及比津雲國利等ガ二月二十六日事件ノ資金關係ニ關シテ取調べヲ受ケ居ル旨ノ記事ヲ掲ゲタルニ因リ削除

財界人物評論	鈴木茂三郎著	東京市芝區新橋七丁目 十二番地 改造社發行	四月二十日發行 四月廿三日削除
--------	--------	-----------------------------	--------------------

モ意味スル虞アルニ因リ十頁安寧削除

記事差止事項

- 二・二六事件に關する件 一三件
- 二・二六事件に關する件 一三件

事件の原因動機目的に關する記事を掲載せるもの

二件

婦人新報	第四五七號	東京市日本基督教婦人會本部 同社發行	四月一日發行 四月六日削除
------	-------	-----------------------	------------------

「二・二六事件以後の政情」ト題スル記事(孫目東司)ハ事件ノ原因、動機、目的等ニ記述シ且同情的言辭ヲ爲セルニ因リ第一八頁及第一九頁削除

(前略)蹶起した彼等軍人の重點はやはり國體明徴、皇道精神の確立にあつたことは明らかでありますから、この背後にひそむ一派との間に意見の大きな相違があつたのですだから彼等軍人の一派はその趣意書中の軍政府樹立の形式内容に就て問はれても、特別に憲法を停止してどうすると

總選舉關係報告	東京市日本橋區吳服橋二ノ一山下 アーケード 社會大衆黨 出版部 平野學發行	四月三十日發行 四月廿八日削除
---------	---	--------------------

選舉政策ノ記事中アジア被壓迫大衆解放ヲ主張シ朝鮮民族解放ヲ



嚴秘

出版警察報

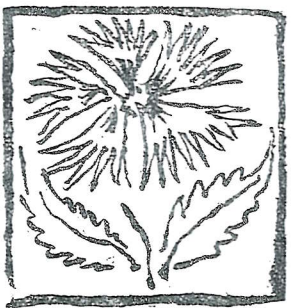
第九十三號

警保局圖書課





輸入禁止處分調	二五四
出版物司法處分彙報	二七三
概  説	二七三
出版物關係司法處分狀況調	二六〇
資  料	二六三
思想關係主要新聞紙雜誌通信調	二六三
出版業者處分回數調	二九四



## 研 究

### 天津教關係出版物に就いて

本年二月茨城縣當局によつて不敬罪として檢舉され、四月送局、六月起訴された天津教團に關する出版物に就いて述ぶ  
 一、天津教に就いて

天津教とは、武内宿彌六十六代の孫、又は五十九代宇多天皇の後胤などと稱する竹内巨磨なるものが、御嶽教の行者となり處々を修行して歩き、後茨城縣磯原町に於て明治三十三年頃より天津教なる神道系宗教をつくつた。

この天津教は教主竹内巨磨の所藏せる神寶なるもの即ち、神劍、神籬立瓶、神骨、十誠石、菊花御紋章、及び竹内文書（大日本天國太古代上々代御皇譜神代文字之卷と稱する神代古記録その他）等二百餘の寶物を中心とするもので、竹内家



# 差押其の他執行状況

## 概説

四月中に於ける差押並に削除處分の執行状況を、各其の發行部數に比較して概観すると次の通りである。

禁止削除件數	發行部數	執行總部數	執行率
一、新聞紙(禁止)	八一	五五四、四七六部	六四、三五四部 〇・一一六
二、通信(禁止)	一二	七、三一六部	三、三四二部 〇・四五七
(削除) ナシ			
三、雜誌(禁止)	三〇	七三、二六八部	二三、一七八部 〇・三一六
(削除) 二六		八一、五二九部	一七、三〇〇部 〇・二二二
內			
(一) 新聞雜誌(禁止)	一八	二二、四八〇部	六、五六〇部 〇・二九二
(削除) 二〇		七〇、五三二部	一四、四一五部 〇・二〇四
(二) 出版雜誌(禁止)	一一	五〇、七八八部	一六、六一八部 〇・三七七
(削除) 六		一〇、九九七部	二、八八五部 〇・二六二
四、單行本(禁止)	二七	五四、一五四部	三三、一五七部 〇・六二二

五、宣傳印刷物(禁止) 三六	五七、八六九部	一九、一三八部	〇・三三〇
(執行率の算定には右執行部數の中より發行部數不明の二件分二四部を除外す)	七、四〇七部	四、五〇一部	〇・六〇四

六、委任處分	內	處分件數	發行部數	執行部數
四一	內			
	譯			

七、蓄音機レコード(禁止) 三件	處分件數	發行部數	執行部數
(一) 淫本	一〇件	不明	七四七部
(二) 春畫	五	同	二六四部
(三) 寫眞	二四	同	一、五〇〇部
(四) 廣告印刷物	二	同	三、二四四部
執行率の算定には右執行部數の中より發行部數不明の一件分二部を除外す)			一、一二三八部 〇・七四五

右の通りで、新聞紙に於ける不振を除けば、他は何れも 率的進行を示してゐるが聊か視目を止む。

相當の成績を納めて居り、就中通信の四割五分七厘は前例を見ざる好成绩で注目に値するものと思はれる。試みに禁止差押執行に付本年一月以降に於ける成績を拾録列記する	新聞紙	通信	新聞雜誌	出版雜誌	單行本	宣傳印刷物
と次の如くで、新聞紙が一月を最高として累月毎に低下せるに、反し單行本のそれは三月の破天的とも云ふべき好成绩は暫く置くとして月毎に上昇し、宣傳印刷物は大要水	一月 〇、〇〇〇	ナシ	〇、一七	ナシ	〇、三三	〇、五七
	二月 〇、〇三	〇、〇三	〇、三三	〇、〇一	〇、五五	〇、五七
	三月 〇、〇二	〇、〇二	〇、〇二	〇、〇一	〇、六〇	〇、五五
	四月 〇、〇二	〇、〇二	〇、三二	〇、三七	〇、六三	〇、六〇

内地出版物取締状況(執行状況)

單行本削除處分執行狀況調

(安 寧)

題 號	現代軍部論	日本新聞集覽	思川文集	時局と經濟政	大 閣 記	現狀打破と維	本朝社會吳讀	陸軍と内閣調	此の書を！非	果の前途と財	動時局と社會運	年日本經濟四季	移とその動の推	告總選舉國爭報	財界人物評論	合 計
發行日附	東京 4.5	東京 3.30	東京 4.5	東京 4.7	東京 3.19	東京 4.15	東京 4.5	東京 4.16	大阪 4.20	東京 4.20	東京 4.22	東京 4.23	京都 5.1	東京 4.30	東京 4.20	一五件
號 數	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
處 分 月 日	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.13	4.14	4.16	4.17	4.17	4.18	4.21	4.25	4.28	4.23	16,141
差押部數計	4	237	22	300	1,924	5,074	197	0	970	3,488	14	1,629	200	400	1,682	45,369
發行部數	12	237	1,000	1,500	24,000	5,050	980	10	970	3,500	400	2,000	200	500	5,000	0.356
差 押 率	0.333	1.000	0.022	0.2	0.080	1.000	0.198	0	1.000	0.997	0.035	0.815	1.000	0.8	0.336	0.356
北 海 道	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	30	-	-	74	-
東 北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
青岩宮秋山福	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秦手城田形島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
城木馬玉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美揚群島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

千東神	葉京川	4	237	22	300	1,334	5,048	141	20	3,488	14	1,210	400	1,189	20	-
新宮石福	湯山川	-	-	-	-	-	-	8	1	-	-	2	-	9	3	-
北 陸	山長岐	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	5	-	1	1	-
東 山	粟野草	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	3	-
東 山	靜慶三	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	3	-	3	5	-
東 海	岡知重	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	150	-	25	101	-
近 畿	滋京大兵奈和	-	-	-	-	590	26	27	5	-	-	60	200	97	11	-
中 國	鳥島岡渡山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	107	-	8	7	-
中 國	鳥島岡渡山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	7	5	-
四 國	德香愛高	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	4	4	-
四 國	島川媛知	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	4	-
九 州	福佐長熊大宮鹿	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	43	20	-
九 州	國賀崎本分崎島	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	1	-	23	7	-
九 州	福佐長熊大宮鹿	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	6	-	7	3	-
沖 繩	兒	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	5	5	-